

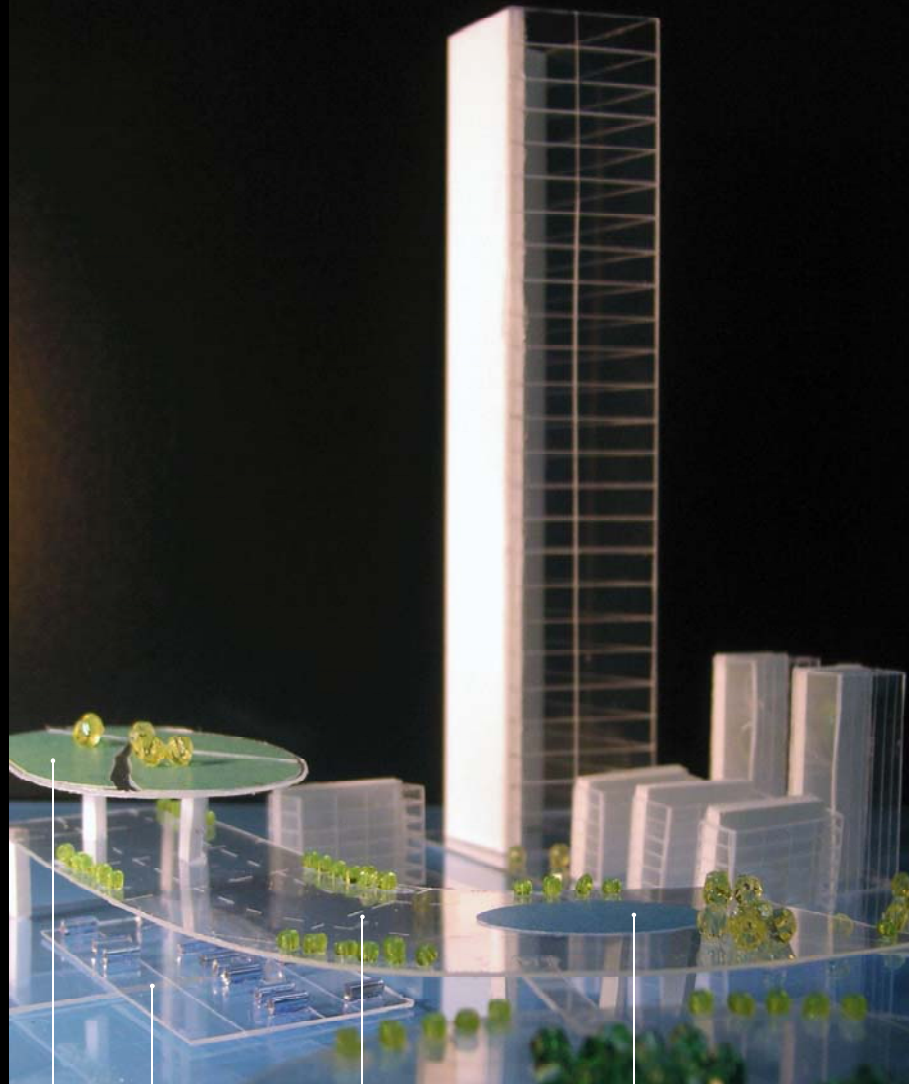
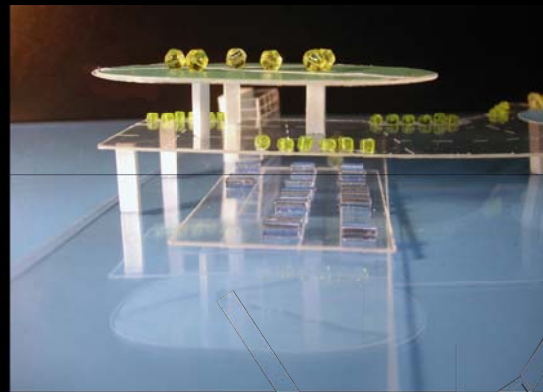
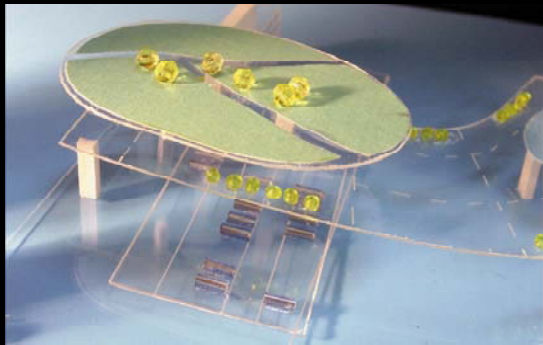
福岡にもっとやさしく快適な暮らしを目指して  
——留学生として私の心の声

**概要：**

現代、多様なライフスタイルを選択する人が増えていながら、現実にはそれを実現するための器、すなわち、住環境と住宅が未だ十分に対応できていない。多様な価値観の共存を進めるということは、現実には価値観だけではなく、様々な人の差異をも許容することを意味する。例えば、性差、地域、障害、年齢、民族などの点で社会的マイノリティの存在があっても、それをマイノリティとしてすら意識しないですむ環境の整備が必要である。そのためには、空間的な整備に加えて社会システムや社会範囲までをも整備していかなければならない。例えば、ノーマライゼーションという用語が現在は、主として身障害者が普通に生活できるようにすることを意味することが多いが、広義には、どのような人々も住みやすい環境の整備の事を意味する。例えば、外国人の住みやすさ、共働き夫婦の住みやすさ、子供の住みやすさなど、必ずしもノーマライゼーションの対象としてはあまり考慮されていなかった人々も含めて、それぞれの公正な費用負担の上で住みやすさを確保できる環境の整備が求められている。

・駐車場の屋上を大改造

団地やマンションなどの住宅地区で雑然とした駐車場をよく目にする。一部分に集中する駐車場の占地面积が広く、非常に勿体ないと感じる。そこで、集中している駐車場の屋上を整備し、木、芝生、農作物を植え、人工的なプールを設置する。加えて、屋上と屋上を結ぶ安全な通路を整備し、人々の運動場、散歩道を作り出す。日本の有限な土地を有効的に利用し、もっとやさしく快適な暮らしな環境を目指した。



駐車場

運動場、散歩道

人工的なプール

芝生、農作物を植える場

団地やマンションなどの住宅地区の駐車場



福岡にもっとやさしく快適な暮らしを目指して

——留学生として私の心の声

福岡にもっとやさしく快適な暮らしを目指して、自然と共生する生活空間を作りたい。そこで、住民自治と住民参加の変化を捉え、都市計画の技術として、田園都市の概念、ゾーニングや計画、駐車場の屋上を利用することを目指して提案する。

1. 公共施設をレジャー環境として利用する  
公共施設のドア、塀、フェンスなどは一切設けず、人々が自由に利用できる。
2. 学校から自然への豊富な子供の教育
3. 活用された公共施設の運営体制、利用者の想定と管理は住民自治という手段を利用したい。特に、活力のある高齢者と時間に余裕がある主婦たちに、協力してもらい、公共施設を管理されることは可能である。
4. 自然な環境に、楽に仕事や生活できる場所
5. 団地やマンション等の住宅地区で雑然とした駐車場の屋上を整備し、木、芝生、農作物を植え、人工的なプールを設置する。日本の有限な土地を有効的に利用したい。



・地元の人々と外国人の混住コミュニケーション  
(いろいろな体験活動を進めるために個性化、開放感がある公共施設)



・自然な環境に、楽に仕事や生活できる場所



・駐車場の屋上に、子供が自由自在に遊ぶ



・公共施設のドア、塀、フェンスなど一切設けず、利用される。



・水上都市公園

## 福岡にもっとやさしく快適な暮らしを目指して ——留学生として私の心の声

日本にきてはじめて、日本の街は想像より狭く、長く曲げた紐みたいで、都市の中に自由に流れ、切れない。それにもかかわらず、まちが美しく、安らぎ、滞りなく通過できるということは私を感心させた。

福岡市は私にとって、とても住みやすく、安定している感じも持っており、一方では天神という都心部と人々の身近な住居部が分離され、賑わう商業集中地と寂しい住宅地の著しいコントラストを示している。また、長年にわたる日本の地価上昇と土地神話の定着によって個人の私権や財産権の保護への意識が強まり、都市計画での公共優先意識が育たず、土地利用規制に関わる国民の公共論理の欠如や、行政組織に都市計画の総合化への真の意欲がなく、形骸化されるなど、国民意識や官僚制の面においても問題の根が深い。

以上の様々な問題に対して、住民自治と住民参加の変化を捉え、都市計画の技術として、田園都市の概念、ゾーニングや計画、駐車場の屋上を利用することをめざして提案する。

**1、住民たちが会社、工場のいろいろな作業を自由に見学し、参加できるように、会社と住民間の関係を透明化し、物や、意見を通して心の交流を目指す。**

### 2、公共公益施設をレジャー環境として利用する

学校、市役所、駅舎、公園、など様々な公共公益施設の複合利用を通じて、新たなコミュニティ・ニーズやレジャー・ニーズに対応することが可能である。さらに、都市内の空間の連続性を保ち、大きなオープンスペースを確保するために、大幅の緑地をしめた公園、学校、会社、病院、及び美術館などの門、塀、フェンスなどの障壁は一切設けず、それぞれの部門に土地を明らかに分割することを避け、必要な用途にフレキシブルに対応できるよう、一元的な管理の下に置く。

### 3、学校から自然への豊富なこどもの教育

子どもの教育は、文化、スポーツ、観光などいろんな課程を含み、さらに、社会、自然と密接な関係をもつ様々なプログラムを実行することは可能である。例えば、美術館を巡る旅、農業を体験する旅、修学旅行、昆虫園の見学という形式が多数考えられる。

### 4、活用された公共施設の管理面についての提案

活用された公共施設の運営体制、利用者の想定と管理は住民自治という手段を利用したい。特に、活力のある高齢者と時間に余裕がある主婦たちに協力してもらい、公共施設を管理させることは可能である。

## 5、駐車場の屋上を大改造

確かに、日本の土地は有限であり、狭い土地でも人々の生活のために合理的に利用しなければならない。写真のように、身の周りが狭い道路や、層建築、無秩序な駐車場だけで、緑色はあまり見えない。運動が大好きな私にとって、常に息が詰まるように感じる。以上の問題に対して、大幅の面積を占めた駐車場に複合機能を与え、人々の健康のために、自然と共生する運動場の機能を追加する。

### 駐車場の屋上の緑化

屋上に、樹木の根に対して抵抗力のある薄い土の層を設けることによって、屋根を保護することが可能である。そこに植物を植えることによってそれは、かつての建物が建つ前に広がっていた緑地の部分的な代償となる。

薄い土の層による酷暑や極寒からの隔離の効果もまた期待できる。そのような「屋根の上の景観」は、それが自然に近く作られるなら、さらに評価の高いものとなる。例えば養分の少ない、土と砂の混じった土壌の上に、多彩な植物群が屋上に生育することもありえるのである。

屋上に野草の育つ駐車場は雨水の流出抑制の効果があり、屋外・屋内ともに夏涼しく、冬暖かい条件になり、そして豊かな生態系の保全などと多くの効用を発揮する。

### 駐車場屋上の緑化の具体効果

#### 1、環境改善

樹木、植物、動物はだんだんに減少の原因

#### 2、人々の健康

自然と共生する運動場を作りたい

#### 3、地元の人々と外国人の混住コミュニケーション

いろんな体験活動を進めるために個性化、変化のバリエーションを富む公共施設、

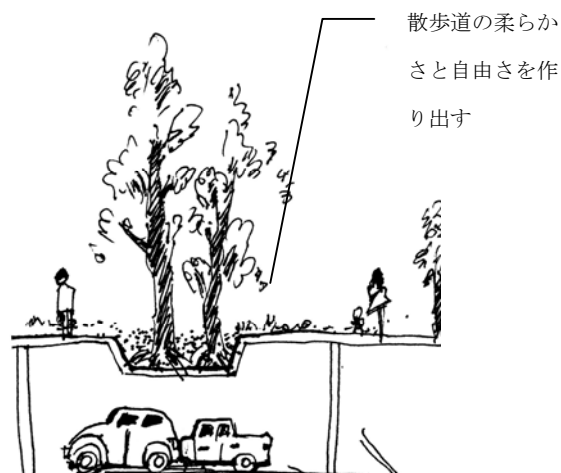
3、高齢者、子供、障害者、気弱者のために、自由自在の、のんびりした場所をつくりたい。

#### 4、日本の有限の土を利用する

#### 5、国際交流

6、道路敷地の平坦で単調な地形に変化を与え、新しい景観を生み出す

盛土や掘り込みなどのランドフォーメーション・デザインをトータルシステムとして行う。



参考文献：

「明日の都市づくり その実践的ビジョン」

日端康雄・北沢猛/編著

「環境デザインの世界」

土肥博至/編著